

進路だより

通過点

流山市立おおぐろの森中学校

令和5年10月2日

進路だより 第5号

◆第3回実力テストを終えて

三者面談を終えて、9月4日の第3回実力テストに目標を設定して臨んだ生徒が多かったと思います。先日テストの解答用紙と個票を返却いたしました。

さて、この実力テストの捉え方も、一つの通過点です。結果を受けて、歩んでいる道を見直すチャンスです。このまま歩み続けることが良いと考えるか、歩み方を変える必要があると考えるか。毎日、様々な人生の通過点を通っています。ただ何気なく日常を過ごすのではなく、“今”自分の目標に向かってどうすべきか、考える習慣を大事にしてみてください。

そして、第4回の実力テスト（10月5日）まで、どのように過ごすことが大事か考えてみましょう。また、来週には中間テスト（10月13日）が控えています。1日1日を大事にしていきましょう。

ここで、「人間は考える葦である。」という言葉聞いたことがあるでしょうか。

「圧力の単位：Pa」でお馴染みのパスカル（哲学者・思想家・科学者・数学者）の言葉です。葦というのは水辺に育つ、弱く細い草のような植物のことで、パスカルは著書の中で「人間は自然の中では葦のように弱い存在である。しかし、人間は頭を使って考えることができる。考える事こそ人間に与えられた偉大な力である」ということを述べています。

学習をしていると、わからない問題に直面することが多々あると思います。そんなとき皆さんはどうしますか？

「解答解説を読む」「もう一度考え直す」「先生に質問する」「あきらめる」。いろいろな選択肢がありますが、どれが正解というわけではありません。しかし、わからないことが出てきたときに「何でもかんでもすぐ質問して解決する」というのも考えものです。確かに質問によって疑問が短時間で解決でき、その分、練習をたくさんすることができるようになるというメリットがあります。と同時に、自分ではそれほど頭を使わないため、「自ら考えて解決方法を見つける」ということをしなくなる危険性があります。

AIが登場した今の世の中は、AIが自ら判断して動くことができるようになってきています。昔は命令に従うロボットだけでした。言い換えてみれば、考えることをしなくなった人は、他人の命令に従うロボットのような、「ロボット人間」ということになってしまうのではないのでしょうか。そこに「自分」は存在しなくなってしまいます。この先、人類の大半がロボット人間になってしまえば、「考えるAI」によって「ロボット人間」が支配される世の中が訪れてしまうかもしれません。

パスカルが言うように、人間は自ら「考える」ことができます。せつかく与えられたその力を無駄にせず、まず自分の頭で考えてみるようにしてください。もちろん、自分の考えた答えが正しいかどうかも分かりませんが、思考には時間も労力もかかります。でも、自ら考えて出した答えこそが「自分そのもの」なのですから、自分が自分らしくあるためにも「考える」ことを大切にしてほしいと思います。それが自律する力にも、社会を生き抜く力にもなるはずです。

（参照：[人間は考える葦（あし）である | 今週の朝礼 \(nohkai.ne.jp\)](http://nohkai.ne.jp)）